

第三者評価 評価結果総括表

NPO 中小企業再生支援第三者評価事業部

事業所名	くっくおさんぽ保育園ふとお
報告書作成日	平成 30 年 12 月 31 日 (評価に要した期間 6 か月)
評価機関	NPO 中小企業再生支援第三者評価事業部

評価方法

自己評価方法 実施期間：平成 29 年 8 月 1 日 ～平成 29 年 9 月 30 日	全職員が参加し、職員会議などを通して検討を重ね、その結果を園長、副園長、主任がまとめました。
評価調査員による評価方法 実施日：第 1 日目平成 29 年 12 月 4 日 実施日：第 2 日目平成 29 年 12 月 5 日	評価調査員が 2 日間園を訪問し、現場観察、書類確認、園長、職員 2 名に面接ヒアリングし、子どもの観察を行いました。
利用者家族アンケート実施方法 実施期間：平成 29 年 8 月 1 日 ～平成 29 年 11 月 30 日	全園児の保護者に、アンケート用紙と返信用封筒を園から渡して、園に回収箱を備え、無記名・密封の状態で評価機関が回収しました。
利用者本人調査方法 (実施日：平成 29 年 12 月 4 日、5 日)	園児の 1 日の流れに沿っての保育園での生活状況を、観察を中心に行いました。また、園児と遊びや食事とともにしながら、会話の中から聞き取りました。

評価結果についての講評

【施設の特徴】

・立地および施設の概要

くっくおさんぽ保育園ふとおは、東急東横線の「大倉山駅」より徒歩 15 分、の横浜市「太尾南公園」の東側に位置する、鶴見川の河川敷に近いバス通り沿いにあり、平成 27 年 4 月 1 日に開園した新しい保育園です。園は定員 75 名で、現在の在籍数 75 名の中規模園で、近隣には、くっくおさんぽ保育園日吉、くっくおさんぽ保育園大倉山の設置法人系列の 3 園があり、系列保育園同士、協力して保育園運営を行っています。

建物は鉄筋コンクリート造りの 1 階建てで、建物の南東側には広いウッドデッキ付きの園庭があります。隣の広大な「太尾南公園」は、鶴見川沿いの浄水場屋上に大規模に土壌を入れて丘陵公園を作り、常時水が流れている、「ビオトープ」では、自然にオタマジャクシ、ザリガニなどが繁殖し、子どもたちに、安全で、貴重な体験の場を提供しています。

・園の特徴

園目標を「*さまざまな生活体験をします。*自分も友達も大切にします。*豊かな感性を引き出し、表現できる力を育みます。*自分の要求や意見を主張できます。*生きていく力をしっかりつけるため、たくさん遊びます。」とし、園は、子どもの自主性、主体性を重視して、保育を実践しています。園では、月 2 回の、リトミックやお絵かき教室を導入しており、また、月 4～5 回の異年齢保育、加えて、和太鼓、荒馬などのプログラムを取り入れ、子どもたちの園生活の充実を図っています。

【特に優れていると思われる点】**1. 地域に対する積極的な貢献姿勢**

園の特徴的カリキュラムとしては、地域との交流があげられ、縁日の開催、わくわく子育て広場への参加、育児講座、園庭開放、一時保育、人形劇など、地域に声掛けを行いながら、未就園児を持つ保護者や、将来の子どもを持つプレママに対して、保育園を知ってもらう機会を持つと同時に、在園する子どもたちの幅広い体験を支援しています。

2. 保護者とのコミュニケーション強化

開設3年目の本園は保護者との関係を情報の提供と収集面で特に力を注いでいます。イラスト 絵入りの楽しいパンフレット、ホームページで子供の遊ぶ様子を毎月写真で多く掲載し、保育士のブログなどで園での楽しさをアピール、決算報告もHPで情報公開し安心感を抱かせる方法をとっています。一方、保護者との連絡では全園児の保護者へ「連絡ノート」を渡し、子どもの様子を伝えるとともに、家庭での様子を把握し、細かな意見要望を吸い上げています。情報が園運営の重要な要素であるとの認識からです。

3. 園庭は遊びの宝庫

園庭の屋外遊技場面積約 100 坪、恵まれた環境にあり、園庭いっぱい遊びの工夫がされています。築山（大、小）、木登り（木の枝の梯子もある）、砂場（泥んこ遊びができる専用の砂場もある）、山の大、小を1本の木で渡した通称1本橋、子どもたちに人気のある遊びです。大きい山のなかを直径1メートル、長さ5メートルくらいの土管を通したトンネルがあり、こちらも人気があります。かくれんぼをしたり、鬼ごっこをしたりしてみんな目をキラキラさせて走りまわっています。夏場はここで涼をとる子どももいます。砂場で使う道具も種類別に仕分けされ、子どもがすぐに取りれるように配慮しています。園庭のいたるところに子どもの興味、関心を引き付ける工夫が感じられます。


【特に改善や工夫などを期待したい点】**1. 実習生の積極的受け入れを**

実習生の受入は、子どもの生活に広がりを持たせたり、将来の保育士人材の確保のためにも、先輩熟練保育士集団の本園としても、積極的に協力する必要があります。地域の専門学校との付き合いなどを通じて、実現されることを期待いたします。



評価機関による評価




平成 29 年 12 月 31 日


事業所名 くっくおさんぽ保育園ふとお

 3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある



評価領域 I 利用者（子ども本人）の尊重





評価分類	評価の理由（コメント）
I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・本園は社会福祉法人くっくあゆみの会（本部；港北区日吉）が経営する認可保育所3園の一つで、いずれも日吉・大倉山地区にあります。同じ地域であるため、同じ法人理念のもと園の保育理念、方針、目標とも各園共通を図っています。 ・保育理念は「こどもの最善の利益を考慮し楽しい1日、大切な1日を提供してゆく」などですが、この理念をわかりやすい表現にしてパンフレットで強調しています。「大きくなるのに必要なコト、食べるコト、遊ぶコト、眠るコト、そして愛されるコト」と4つの大切なことです。 ・くっくとは小さな子が歩き始める時、自分の足元を見て、「クッククック」と外に出たがることから、靴と散歩をもじったフレーズを園名としたようです。 ・大きな文字とイラスト入りの園パンフレットは、抽象的な文言は排し、一目で園の方針、生活の様子が見て取れます。園よりも各クラスよりも、保健、給食、など毎月のお知らせを散発ではなく、1冊の冊子にして保護者へ届けている便利なものです。 ・園ホームページでは毎月子どもの様子が公開され、毎年の決算報告も見ることができます。 ・これら理念は常勤栄養士2人を中心に「新鮮な食材を手作り」で食事を提供し、130坪はある広い園庭、隣にある広大な屋上公園を自由に使い、「思い切り自由に遊ばせるコト」などで具体化されています。 ・保育課程は園の理念を冒頭に記し、園長、副園長、主任が主に作成し、職員会議、入園式、懇談会で職員や保護者に説明しています。 ・子供の発達過程に応じた年齢別・クラス別の指導計画が年間、月間、週案として主任、クラス担当により作成され、その反省も記入されるとともに、園児全員の毎日の保育状況が、保育日誌で記録されています。
I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に保護者から郵送でもらう書類は所定のもの以外に「新入園児アンケート・発達の目安」があります。 ・親子面接には園長、副園長、主任、フロアリーダー、クラス担任、栄養士、場合によっては看護師が同席します。 ・本園では年度限定（0、1、2歳までの子どもを1年間保育する制度）の子ども1人を横浜市の要請で受け入れています。 ・慣らし保育は原則2週間ですが、乳児は初日は1時間からです。子どもの好きなものの持ち込みは2歳児までは心のよりどころとして1つのみ認めています。 ・園児全員に「連絡帳」を渡し、保護者への連絡は密にし、コミュニケーションをとっています。 ・新入園児入園に伴う在園児への手薄感、フリーとして主任、副園長も控えており、十分なサポートが可能のようです。 ・指導計画はグループ3園で共通化を図り、主任クラスが会議で検討しています。年齢別に年間、月間、週間の指導計画、と乳児には個人別の指導計画、特別に配慮を要する子にも個人別の指導計画が作成されています。これら各種の指導計画には「ふりかえり」欄があり、担当者による反省が簡潔に記載されています。 ・全園児用に「年間食育計画」があり、各年齢児が月ごとにマナー、食べ方、箸などが上達する目安を表しており、「食べるコト」に重点が置かれていることがわ


	<p>かります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の出来事・反省点は「保育日誌」があり、「個人経過記録」は4半期ごとに要約され、成長記録として保存され、進級時に担当者へ引き継がれてゆき、小学校へ送られる「保育要録」に記載されてゆきます。 ・保護者の意見を本園は、念入りに把握するような仕組みを作っています。各行事後のアンケートをとり、園行事にいかしています。
<p>I-3 快適な施設環境の確保 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本園の前面は銀杏などの並木道でその先の県道の向こうには古い住宅街があり、園と同じブロックには港北区水再生センターという広大な浄水施設とその屋上に「太尾南公園」（ふとお、本園の名前はここに由来する）が建設され子どもの遊び場となっています。 ・園には8台分の駐車場があり縁日など行事を行い、園庭は130坪、築山が2つ、横浜では珍しいどろんこ遊びのできる砂場があります。6月の1か月間毎日どろんこになります。ウッドデッキが各部屋の前にあり、陽光はふんだんにそそぎ、夏は日差しが強く、カーテンで遮光するほどです。 ・屋内は上履きを履いています。 ・清掃当番は掃除マニュアルに基づき各部屋が清掃され用紙に記入者の名前があります。 ・空調は部屋の中央コントロールでも管理しています。加湿器も設置されています。 ・本園は県道から20m奥にあるため、室内での騒音は、例えば和太鼓の練習をしても、室内で響いても外ではあまり気にならないようです。 ・保育室は0、1歳は独立部屋、2歳児も独立部屋。3、4、5歳は一部屋を2つに仕切り、異年齢保育のための合同部屋としています。大人の腰まである木の棚で仕切り、棚の内側は個人用ロッカーになっています。午前中は4歳児と5歳児は常にこの部屋で合同保育し、「おひさま保育」では3歳児も加わります。これが本園の最大の特色です。理由は小学校ではクラス30人の集団となりますが、保育園では14名と半分の集団です。大きい集団に早くからなれさせること、それと4歳児は5歳児からいろいろと教えられることです。これが合同保育に踏み切った理由と園長は言っています。 ・沐浴室を一度使用した後は、その都度清掃、次亜塩素酸水で消毒しています。 ・温水シャワーは2か所あり、管理は「安全チェックリスト」に基づき担当職員が入念なチェックをしています。
<p>I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入園後の成長発達記録は毎日の行動 成長のありさまを記載した「健康台帳」で、①健康、②給食の喫食状況、③保育の状況、が記録されています。4半期ごとに要約され進級時に担任へ引き継がれます。 ・乳児と特に配慮を要する子供には全員個人別の指導計画があります。配慮を要する子どものケア会議では議事録には氏名は記入せず、イニシャルで記載し、会議参加者もメモは取りません。個人用保育日誌にも児童名はなく、イニシャルのみの記載です。徹底したプライバシー保護を行っています。 ・個別指導計画はクラス担任と乳児リーダー、幼児リーダーとの会議で見直しが提案され、職員会議などで検討されます。 ・横浜市総合リハビリテーションセンター職員が巡回相談で年2回以上は来園し事前に保護者には伝え、当日担任を交え話し合いに合わせ、今後の生活上の助言をうけています。 ・個人の成長経過記録は、鍵のかかる棚に保管し、園長の許可が必要です。 ・全職員への情報共有は毎日の出来事、変化を引き継ぎノート、園日誌に記入し誰でも見ることができます。
<p>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本園には特別に配慮の要する子どもがいます。 ・本園建物は横浜市が保育所用に建設した施設であり、設置法人が10年間の賃貸契約をしています。当然にバリアフリーなど整備されています。 ・園内の壁には張り紙など目立つものは貼っていません。白一色に近いシンプルさです。これはシンプルな空間に安らぎを覚えるという実証実験の結果に沿ったものです。 ・横浜市北部の療育センターである横浜市総合リハビリテーションセンターの巡回相談は年2回あり、また港北区保健福祉センターが窓口となってケースにより

	<p>相談、助言が受けられる体制になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内は統合保育が実施され障害児との区別は行っていません。 ・虐待を疑える子はいません。“当地域は古い住宅地であり、所得階層が安定している家庭環境の子が多いせいかも”と園長は分析しています。 ・OJT で保護者の言葉使いの変化を敏感に感じ取り、態度の変化、子どもを引っ張る時、体の目に見えないところなどは着替えの時に注意してみるなど虐待の予防に注力しています。 ・食物アレルギー児には対応指示書、アレルギー疾患生活管理指導表を提出してもらい、常勤の 2 人の栄養士を中心に献立、摂食方法を保護者と相談して決めます。また、月に一度保護者と読み上げ確認もしています。 ・園独自の対応マニュアルに基づいた献立の確認方法は 9 時 50 分に栄養士、調理員が読み合わせして行い、食事の受け取り方は赤色が「アレルギーあり」青色が「アレルギーなし」とプレートで色分けするなど工夫をしています。 ・園児同志の食物のやり取りは禁止されています。 ・誤食事故が起きた場合の園内対応として各職員の役割分担を決めており、発見者の行うこと、園長、看護師、副園長への連絡方法などフローチャートが事務所に掲示されています。 ・外国人保育では 2 人いますが、母が日本人のため意思の疎通はなく子供同士、分け隔てなく話している様子が窺えて違和感はありません。 ・園内には絵本形式の世界 MAP が置かれ、各国の風俗、習慣、食べ物など目で見られます。子ども同士でこの地図をみながら理解しているようです。
<p>I - 6 苦情解決体制 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本園では苦情などは「園内で処理する」ことを原則としており、保護者へは「お困りの点、ご意見 ご要望 お子様に関しての相談等はお気軽に」とことあるごとに伝えていきます。 ・相談窓口 相談解決責任者の名前を園玄関へ掲示し意見箱もカウンターにあります。 ・第三者委員は民生委員 2 人で、重要事項説明書 玄関に氏名と電話番号が明示されています。 ・意見・要望は園保護者全員がもつ個人別「連絡ノート」で伝えられるケースがほとんどです。第三者委員まで介入するケースはありません ・苦情・相談ファイルには年間数件あるのみです。公共的な相談窓口として港北区福祉保健センターサービス課、横浜市福祉調整協議会の名前を玄関入り口で確認できます。 ・苦情解決の仕組みとして①園内対応解決、②第三者委員介入、③外部権利擁護機関の順序で解決法を採用し、本園は初期対応を大切にしているために「連絡ノート」に些細なことでも連絡してくださいと書かかれています。保護者の意見は職員会議でも検討され、園内掲示、「えんだより」で公開しています。非公開の要望も受け入れています。 ・防犯訓練の中で、クレーム対応の訓練も行っています。 ・過去の苦情・要望データは「苦情・相談ファイル」で保存され、職員は常時園長の許可がなくても見ることができます。



評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－1 保育内容[遊び] </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのクラスも絵本は低い本棚に並べ、子どもが自分で好きな本を取れるようになっています。3歳以上は自前の道具箱があり、クレパス、粘土、粘土板、のり、ハサミなどが入っており、使いたい時にはいつでも取り出せるようになっています。 ・幼児の部屋にはキッチンセットがあり、シンクは蛇口付き、レンジはIH、おもちゃも進化しており、子どもが興味を持って遊べる環境になっています。 ・一斉活動ではみんなで遊べるドッジボール、リレーの練習を提案し、子ども達にルールを押し付けるのではなく遊びのなかで子ども達がルールのあることを知り、気が付くようにしています。 ・野菜の苗（さつまいも、ピーマン、きゅうり、トマト）を植え、子どもたちが水やりなどの世話をし、成長を楽しみました。収穫した野菜を年に1度のお楽しみ保育の時に、保護者も来て一緒に調理し、食しました。 ・月2回、2歳から5歳児まで「リトミック」、「お絵かき教室」は4、5歳児。子ども一人ひとりの表現を大切にし、子ども達が音楽に合わせ、自由な発想で表現活動を楽しめるような環境設定をしています。 ・3、4、5歳児では朝夕の合同保育、週1回の「お日さま保育」、月1回の「あおぞら保育」異年齢との関わる時間があります3、4、5歳児は合同保育遊びの中で関わりを持ち、思いやりの気持ちを持てるように育てています。各クラスの職員が連携をとり、自由にクラス間を行き来できる環境にあります。 ・散歩や外遊びは指導計画「散歩などの戸外活動を通じて自然を知る」に盛り込み、園庭が広くブランコ、築山、木登り、1本橋渡り、砂、泥んこ遊びがいつでもできるようにになっています。子どもは遊びにどっぷり浸かり、夢中になって遊んでいます。
<p>Ⅱ－1 保育内容[生活] </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入園時に子どもの好き嫌いや量などについて保護者に聞き取り職員は把握しています。月1回、手作り弁当の日を設け、家庭からお弁当を持参してもらい、食べる量や嗜好などを把握しています。盛り付けをするときに小盛りと普通盛りを子どもに聞いて完食できる量を盛り付けています。食事は「楽しく食べる」ことを基本としており、「頑張る」という言葉は控えるようにしています。 ・食事は和食を中心とした献立を提供しています。「年間食育活動計画」に基づき、折々の行事や誕生日に因んだ行事食、旬の食材を使った料理を取り入れています。 ・毎月、職員に給食アンケートを実施し、それを基に行事食や献立を園長、栄養士が考え提供しています。「えんだより」に掲載し、10月の“クッキング”では3歳児と4、5歳児それぞれに分かれて「コロッケパフェ」を作ったこと。蒸した芋を潰し、ラップで包んで丸め、カップに入れて色野菜で盛り付け、それぞれが作ったパフェをみんなで食したことを記載しています。 ・毎日の食事サンプルは玄関入口に昼食とおやつ、離乳食（午前、午後）を提示しています。人気メニューのレシピは持ち帰られるようになっています。保護者の試食は保育参観の折に子どもたちと一緒に試食できるようになっています。試食は2日間設け、80%程の参加があり、アンケートでは「おいしかった」「家でも作りたい」というコメントがありました。 ・入園前面談で家庭での眠るときの癖や習慣について聞き取り、家庭と同じように安心して眠れるように配慮しています。 ・「乳幼児SIDSについて」、「子どもの窒息による事故を無くしていくために」、その他防止マニュアル、フローチャートが作成されており、0歳児は5分おき、1歳は10分おきに確認し、「睡眠チェックシート」に記録しています。 ・一人一人のリズムを把握し、幼児クラスは活動の節目に声かけをし、ストレスにならないように排泄に誘っています。 ・トイレトレーニングの状況はスタッフ会議でその都度、情報交換し、共有しています。排泄を気にする保護者には季節や個人差のあることを伝えていきます。




<p>Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【健康管理】 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人作成の「健康管理マニュアル」のなかに健康管理に関する留意事項が詳細に書かれています。入園前に面談し健康台帳に記録して周知しています。 ・体調がすぐれなかった場合、まずは看護師の指示を仰ぎ、熱は37.5度を目安に、保護者に一報を入れ降園後の対応について話しをしています。 ・年1回の歯科健診の際に、嘱託医よりブラッシングの適切な磨き方や歯の大切さを伝えてもらっています。歯ブラシの交換は月ごとに保護者にチェックをお願いしています。 ・嘱託医による健康診断は年2回、歯科健診と歯磨き指導は年1回実施しています。結果は健康台帳に記録し、鍵付きの書庫に保管しています。毎月配布のえんだよりに「ほけんだより」を掲載し、保健行事のお知らせをしています。11月では園児健診、身体測定の日程を記載しています。 ・健康診断の際、心配なこと、相談したいことがある場合は事前に口頭又は連絡帳により受けて、当日に答えてもらっています。健康診断、歯科健診の結果は健康台帳に記録するとともに保護者に伝え、連携を密にしています。 ・入園時配布している「ほけんのしおり」に感染症一覧があり、登園許可証が必要な感染症と登園許可証が不要な感染症について明記しています。 ・感染症が発生した場合は看護師が情報を速やかに玄関、ホワイトボードに日付、病名、潜伏期間などを掲示し、保護者に情報提供と注意喚起を行っています。
<p>Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【衛生管理】 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人作成の「衛生管理マニュアル」があり、毎年、看護師、職員がそれぞれの立場から意見を出し合い、纏めた内容を看護師が設置法人3園による合同会議にかけて見直しを行っています。 ・「環境、管理、清掃方法マニュアル」に基づき、清掃を行い、清掃後はチェックをし記録、管理しています。汚れに気付いたときは随時、こまめに掃除しています。冬場の感染症対策として看護師が「嘔吐処理対応」を職員に配布しながら説明をしています。インフルエンザ他感染症が流行ったときはうがい、手洗いの徹底と注意喚起をしています。
<p>Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【安全管理】 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重要事項説明書に「緊急時における対応」を記載し、全職員が周知しています。0歳、1～2歳、3～歳児の安全チェックリストがあり、職員が確認後、チェックを入れるようになっていきます。緊急連絡は一斉メールができるようになっていきます。 ・毎月全園児が避難訓練を実施し、年1回は引き取り訓練、炊き出し、を行い緊急時に備えています。 ・年1回、外部の講師による救急救命法を毎年受講し、AEDの使用方法についての指導を受け、職員は周知しています。 ・保護者への緊急連絡先は個人ファイルに保存し、事務所に保管されています。 ・「事故記録簿」にも怪我をした原因、再発防止のための改善策を記録することになっていきますが、職員会議においても事故や怪我がなぜ起こったのか、また、事故に至らないヒヤリ、ハット事例についても情報交換し、事故の再発防止に活かしています。 ・出入口は防犯カメラを設置し、オートロックになっており、保護者にはICカードを配布しています。 ・「不審者対応マニュアル」があり、警備会社と契約し、緊急通報体制を整えています。各部屋にも警備保障会社に通じる非常ボタンがあります。 ・不審者侵入を想定した不審者対応訓練を年4回実施しています。 ・不審者情報は港北AAAより、防犯情報がFAXで随時送信され、保護者からも情報が入るときもあります。
<p>Ⅱ－３ 人権の尊重 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの声かけは「急いで！」とせかしたり、命令するのではなく、「早く行こうね」などと、年齢や発達に応じた口調でやさしく、丁寧に対応しています。 ・子どもに注意をするときは回りに留意し、話が集中できるように場所を変え、「何がいけなかったのか」を説明し、納得できるように話しています。 ・クールダウンする場合は、友達や保育士の視線を意識せずに過ごす場所として、廊下に出たり、使っていない部屋を使用し、過ごすことができます。 ・保護者との面談や子どもが身体を休めたい時など、空いていれば保育室を利用することができ、必要に応じて使い分けています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護については採用時の研修やガイドライン・マニュアルに従って取り扱い、全職員が周知しています。 ・保護者には入園時や懇談会においても個人情報取り扱いについて説明をし、同意を得ています。 ・母の日、父の日など固定的な家族観のある記念日等は、一人親家庭もあるので設定せず、運動会の時に親子競争、兄弟競争の種目にし、誰が参加しても違和感のないように設定しています。ジェンダーフリーについて職員会議で周知しています。 ・固定観念に基づく発言が無意識に出た場合は、職員間で注意し合い、職員会議で意見交換し研鑽に努めています。
<p>Ⅱ－４ 保護者との交流・ 連携 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者には入園説明会や入園式で説明し、4月の懇談会でも説明しています。また、4月配布の「えんだより」にも明記しています。 ・玄関入口に保育方針を掲示し、「えんだより」では保育方針にある「遊びの中で身につけるたくさんのかんごをたいせつに」「発達を節目を丁寧に見守る」「子どもの健やかな育成を願い～」など保育のなかで実践しています。 ・入園時に配布する「入園のしおり」に保育方針を明記しています。 ・0～2歳児は「連絡帳」に、家庭での子どもの様子、夕朝食事、睡眠、機嫌、検温、排泄などを記入してもらっています。3、4、5歳児も連絡帳があり、何か伝えたい時には家庭、園それぞれの欄に記入することになっています。 ・保護者からの面談はプライバシーに配慮し、落ち着いて話ができるように一時保育室や事務室を使用しています。職員は日ごろより保護者に声をかけ、気軽に話し合える関係ができるようにしています。 ・「えんだより」を毎月末に配布し、その月誕生のお友だちの紹介と保護者からのメッセージ、「行事の案内」や「お知らせ」を記載しています。 ・年2回のクラス懇談会で園目標やクラスのねらいを説明し、これからの活動内容や現在の状・況を保護者伝えています。 ・5月の「えんだより」で年間行事を伝え、説明しています。毎月配布の「えんだより」では翌月の行事予定を記載し、保護者が予定を立てやすいように事前にお知らせしています。 ・懇談会に出席できなかった保護者に対しては後日資料を手渡し、クラスの話合いの内容など職員が口頭でくわしく説明しています。 ・保護者からの要望があれば、いつでも場所を提供し、自主的な活動ができるようになっています。 ・保護者会はありますが、開園3年目で活動はまだあまり積極的に行っていませんが、「お楽しみ会」の出し物、荒馬の衣装作りでは保護者が布を提供し、職員も協力して完成させました。 ・お楽しみ保育のカレー作りでは保護者が積極的に参加するなど常にコミュニケーションを図っています




評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・本園の立地する太尾地区（ふとを）は公共施設が多く町内会は存在しますが近隣の住宅が少ないという事情があります。開園３年目、町内会への加入はしておりますが、接触はこれからの予定です。園庭開放や一時保育、見学会 駐車場で行う「縁日」 毎年劇団を呼んで行う恒例行事「人形劇」等の行事後に保護者と会話することにより保護者のニーズを知るように心がけています。オムツ交換 授乳などママさんの急場の用のための「ベビーステーション」を本園に設置しステッカーを門前に貼ってあります。・港北区主催の公私立合同育児講座として就学前乳幼児と保護者を対象に「わくわく子育て広場」が毎年９月港北公会堂で開かれ本園は出展しております。今年は栄養士による離乳食相談コーナーを担当し保護者の相談に応じております。 ・本園内で毎年６月に講師を招いて「ベビーマッサージ」講座を開いています。園内で行う子育て支援サービスは各クラスへ１名づつ子どもを配置する一時保育、早朝と夜の延長保育、毎週の園庭開放、ベビーステーションなどです。小規模保育施設である港北子ども園と連携して、２歳児までの子供の行事への参加、給食交流、職員交流など交流保育を行っています。
<p>Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・港北区内の住民に対する情報誌「幼稚園・保育園ガイド」に情報を提供し、園の見学者には「子育て応援BOOK」という職員作成の子育て応援冊子を配布しています。 ・育児相談は電話での問い合わせの人には「毎週水曜日行っています」と予約を取っています。 ・保育所からの地域への情報提供は園の門前での掲示にとどまっています。園庭開放日、ベビーステーション、人形劇、縁日などの地域住民参加の行事の時です。 ・本園が連携する機関は横浜市総合リハビリテーションセンター、区役所こども家庭支援課、港北区福祉保健センター、北部児童相談所、関係する小学校などで、連絡は園長が担当です。 ・接触頻度の高いものはこども家庭支援課、横浜市総合リハビリテーションセンター、福祉保健センターなどです。




評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園の恒例の行事「縁日」は、道路側の広い駐車場と園庭を利用して開催しており、地域の親子が 20 組くらい参加しています。また、園の年間行事の一つである「人形劇」には、地域親子 10 組の参加を得ております。 ・地域の保育園とは、年 5 回「年長児交流保育」を行っており、年長児の就学準備を進めています。 ・園は「園庭開放」を行い、また、「ベビーステーション」登録を、行っており、施設を地域に開放しています。 ・地域の秋祭りなどには、園から寄付を行ったり、町内会からの依頼で、公園での花植えを手伝ったりしています。地元の太尾連合町内会主催の「緑道公園への球根植え」イベントへは、4、5 歳児で参加しています。 ・近隣の「大倉山記念館」では、子どもたちの絵画作品の展示会を行いました。隣の広い浄水場屋上に作られた、人工のせせらぎと池「ビオトープ」では、繁殖しているザリガニ取りが子どもに大人気です。 ・子どもたちは散歩の際にすれ違う地域の人たちとあいさつを交わし、散歩先の公園でも、地域親子と一緒に遊んだりしています。 ・年長児は系列園の園児との交流や、地域保育園交流、さらには小学校の見学等、就学に向けての地域交流に参加しています。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園のホームページに園の様子を掲載して、園情報を広く発信しています。 ・港北区の子育て支援 NPO「びーのびーの」が発行する「幼稚園・保育園ガイド」に、詳しく園情報を掲載しています。 ・期間は限定されますが、鶴見区駒岡の大型商業施設「トレッサ」には、本園も載っている「保育所パネル」を展示してもらったりしています。 ・年間 100 件以上の見学希望者を受け入れており、園のパンフレットを基に説明しています。 ・見学は毎週水曜日の午前 11：00～としていますが、保護者の希望で申し出のある時間帯などは、相談の上、柔軟に対応しています。 ・見学受入れについては、ホームページにて広報しています。
<p>Ⅳ－３ 実習・ボランティアの受け入れ </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア受け入れマニュアルがあり、職員には入職時研修などで内容を周知しています。受け入れ窓口は、園長、主任が担当し、受け入れガイダンスや受け入れ後のボランティアの感想文などの記録する仕組みはできています。ボランティア終了時には反省会を持ち、色々な提言を受けています。 ・実習生受け入れマニュアルがあり、職員には新人研修などで内容を周知しています。受け入れ窓口は園長、主任が担当し、受け入れガイダンスや受け入れ後の感想文の提出、職員との意見交換をするなどの仕組みができています。しかしながら、本園は開所してから間もないため、今までのところ、実習生の受け入れ実績はありません。 ・実習生に関しては、学年や学生の保育に関する経験レベルも勘案して、また、実習生や学校よりの部分実習か、責任実習の要望も入れ、実習プログラムを組み立てる仕組みもあります。実習終了に際しては、園長や各クラスリーダーと意見交換を行い、内容を記録してファイルすることになっています。 <p><改善を期待する点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習生の受入は、将来の保育士人材の確保のためにも、先輩熟練保育士集団の本園としても、積極的に協力する必要があります。地域の専門学校との付き合いなどを通じて、実現されることを期待いたします。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人材不足が出た場合には園長が日吉園園長（理事長）及び、系列園園長とも相談し、大学などへの求人依頼、ハローワークなどへの登録、横浜市、港北区での求人ブースの利用など、人材確保に向けて動きます。園の外柵などへの求人ポスターの張り出しも行います。 ・人材の育成については、系列3園の連携で、新人研修マニュアルを作成し、入職2年目の職員が新人研修に当たるなど、3園合同で進めています。 ・毎年、講師を招いて園内研修を実施し、必要な職員には必ず受講を義務付け、パート職員にも声掛けを行っています。 ・正規職員は、年1回以上の内外研修受講が義務付けられており、また、系列園同士の交流保育も盛んに行っています。 ・職員が外部研修などで知識を得た、「パネルシアター」や「手遊び」など、職員会議で発表ののち、保育に取り入れた実例は、数知れません。 ・系列3園合同会議では、年度末に各園の職員が受講した研修内容について反省し、次年度の研修計画に反映しています。 ・全職員には、「保育園業務マニュアル」の、必要部分については、コピーを取り、手渡しています。 ・シフト作成は、主任と2名のフロアリーダーがこれに当たり、保育業務を行うにあたっては、常勤職員と非常勤職員とを組み合わせ保育を行っています。 ・非常勤職員には、園内研修への出席を勧めたり、設置法人の研修やその他外部研修に出席した職員の研修報告書や受講テキストや、マニュアルを読むことを勧めしています。 ・非常勤職員の指導担当は園長がこれにあたり、職員間で細かくコミュニケーションをとりながら保育にあたっています。
<p>V-2 職員の技術の向上 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は日誌、週案、月案にて自分の担当する保育につき、定期的に振り返りを行い、また、園長は別に、72項目にわたる「保育所自己評価表」にて、保育園の自己評価を行っています。 ・園長が年1回行う保育所の自己評価結果については、職員会議で議論したうえで、玄関に掲示し、保護者にも周知しています。 ・各指導計画は、振り返り欄を設け、期ごとに振り返り、評価、反省して次の計画の作成、見直しを行っています。職員は各自の振り返りをもとに、関係職員間で意見を出し合っています。週案の反省欄には、保育環境の改善を含め、職員からの提案が盛り込まれ、職員会議にて改善策を立案・実践しています。職員会議では理念、方針、保育課程をベースに確認し合って、自己評価、振り返りをしています。 ・系列園や港北区の「認可保育園等施設長会議」、また、外部研修で得られた、他園での工夫・改善事例などは、その都度園内の職員会議にて全職員で共有し、保育に生かしています。 ・「おいしい保育所の食事づくり」を編集した、柳沢芳子先生を招き、食育に関する園内研修などを実施しています。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人の「保育士人材育成ビジョン」はないが、経験年数に応じた役割が期待水準として明文化作業は現在進行形です（一部完成しています）。 ・園長は、日常の保育現場での判断は職員に任せ、最終責任は園長が負うことを表明しています。園長不在時には副園長、クラスリーダーなどが代行を務め、権限の委譲がされています。 ・園では行事の終了後は、保護者からのアンケートに加えて、職員からもアンケートを取っており、職員意見の把握に努めています。 ・園長は、職員との個人面談は、年1回実施しており、必要な場合には、随時面談の機会を持っています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
VI-1 経営における社会的責任 	<ul style="list-style-type: none"> ・規範・倫理規定は「保育士倫理綱領」に明記されていて、全職員にはこれを配布しています。 ・経営、運営状況については、ホームページに掲載すると同時に、園玄関にも閲覧ファイルとして備えています。 ・園では、保護者からの「ご意見箱」とは別に、職員意見をくみ取る「保育中のちょっと気になるBOX」を用意しており、保育に関する気になることの抽出に努めています。 ・ごみの減量化の一環として、新聞の広告紙は折り紙に転用したり、コピー用紙の裏紙は、子どもたちのお絵描き画用紙にしたりと、ごみの減量に努めています。 ・園では「節電・節水」に努めています。 ・節電やごみの分別の貼り紙を掲示し、園としての省エネルギーに対する取組みを、保護者に周知しています。
VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の理念、基本方針は玄関、トイレに掲示してあり、職員は常に目にしながら保育にあたっています。 ・園長は職員会議などで議論が錯綜するようなケースでは、必ず理念に立ち戻り、整理するようにしています。 ・園長は、職員との個人面談などで各職員の理念に対する理解度を把握することにしてしています。 ・定員増の計画時には、保護者には十分説明し、理解を得た上で実行しています。 ・保護者に対しては、父母の会に園長が出席して、説明し、理解を得ています。職員に対しては、職員会議にて説明し、意見交換の上、実行に移しています。 ・物置を増やす件では、設置法人の理事長が横浜市との交渉を行い、市からの了解を得ました。 ・主任候補職員に関しては、横浜市の主任研修を受ける仕組みがあります。 ・シフト表は、主任と2人のフロアリーダーが作成しており、主任は特に全職員の勤務状況に配慮しながら、シフトを組んでいます。 ・主任は、職員に対して助言と指導も行っています。 ・主任は、職員一人一人とコミュニケーションをとり、体調に配慮して、業務管理を行っています。
VI-3 効率的な運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は港北区園長会議に出席して、地域の保育園運営に関する種々の情報を入力して、園の運営に関する事柄は園に持ち帰り、主任、クラスリーダーと協議の上、職員会議などで全職員に周知して、対応策を検討し、改善に取り組んでいます。 ・本園の長期計画は、10年後を見据えたもので、「地域との関連」「行事の在り方」「保護者との在り方」「職員交流」「ボランティア」などから成り立ち、平成27年度から、年度ごとの在り方を定めた、中期計画が確立しています。 ・設置法人には、各種職業が別の6人の理事がおり、多分野からの見識で次代の保育園の在り方など組織運営について議論しています。 ・次世代の組織運営や人材育成のため、設置法人が社内研修、社外研修を計画的に進めています。 ・設置法人は運営に関して専門家の意見を聞き、マネージメント、保育など多方面の専門家を研修の講師として招聘しています。

観察方式による利用者本人調査

平成29年12月4日、5日

事業所名：くっくおさんぽ保育園ふとお

【0歳児】

<朝の遊び>

0歳児はどんぐり組で今日は8人です。みんな1歳になっています。部屋には絵本、ぬいぐるみ、おもちゃ、手提げなどが手の届く位置に置いてあります。シートを敷いたフロアには子どもたちがぬいぐるみやミニカーで遊んだり、何かを取りに行こうと危なっかしい足取りでよちよち歩いています。職員の膝に座り本を読んでもらっている子、その周りに次々子どもがやってきて一緒にお話を聞いています。職員が絵本を見せて「車だよ!」というと、ブー、ブー、声をあげて喜んでいました。

職員が「おさんぽに行くからお片づけ!」、声がかかると子どもたちは片づける、ということは何となくわかっているようで、職員のすることを真似ています。まだ、大雑把ですがおもちゃや、絵本を所定の場所に戻そうとしていました。

<お散歩>

職員に靴下、靴を履かせてもらい、お揃いの帽子(クラスで色分け)をかぶせてもらおうと、子ども8人が大型のベビーバギーに順番に、乗せてもらっています。職員3人が前後から押しながらい子どもに話しかけています。「今日もブーブー、見に行こうね、みんなの好きなブーブー、見れるかな?」すると、飛行機の音が〜、職員が上空を指さし、子どもにおしえています。職員と一緒に手を振り、「行ってらっしゃい、バイバイ」、そのあとも、「鳥さん、バイバイ!」自転車ですれ違う人、犬とお散歩の人、他園児の列にも会うたびに手を振ってバイバイを連発しています。遊歩道には色とりどりの落葉があり、職員が拾って子どもに見せています。なかには落ち葉を欲しがっている子どもがいて、職員がきれいな落ち葉を見つけ、手渡すと大事そうに両手で持っていました。落ち葉を踏みながら進んでいくと待望の車がやってきました。バス、トラック、郵便車に手を振っていると、ピーポ、ピーポの音に子どもたちが一斉に振り向き、体を乗り出して音を追っていました。0歳児はベビーバギーに乗ったままUターンして帰るお散歩でしたが、上を見たり、左右を見たり、目をキョロキョロしたので帰りのバギーのなかでは目がトロトロしている子どもの姿もありました。

<午睡の風景>

部屋を0歳児、1歳児、半分づつに分けています。トイレに行った子どもから自分の毛布のある場所に行きます。敷布団はレンタルですが、上に掛ける毛布は各家庭から持ってきたもので、0歳児も自分の柄(キャラクター)で場所をすぐに見つけています。カーテンを引き、照明を落として心地よい眠りにつけるようオルゴールの音色を流しています。0歳児が布団の上でごろごろしていると、1歳児が入ってきて、ちょっと騒がしくなり、職員が指で「しいー!」と制しました。ウトウトしはじめた子どもも一瞬、目をパッチリあけて周りをキョロキョロ、3人の職員が寝つけない子どもの間に入って、毛布を掛け直したり、背中をトントンしながら見守っています。ゴロゴロして壁にぶつかった子、指しゃぶりや目をこすっていた子もようやく眠りにつきました。

【1歳児】

＜朝のおやつ＞

今日のおやつはサラダせんべいと牛乳です。職員がカゴに入れたお手拭きをテーブルに置いていきます。カゴの中から自分の手拭きを見つけ、きれいに拭いています。みんな揃ったら、“いただきます”をして、一緒にいただきます。1枚ずつ配膳されたおせんべいをそのままポリポリ食べている子、食べる前に手で叩き小さく割って食べる子、食べ方はさまざまです。調査員が側に行くと「おせんべいたべてるの!」「牛乳飲んでるの!」みんなお話ししながら、おいしそうに食べていました。職員が牛乳を飲み干した子どもに、お代わりのお茶を聞いて入れています。それをみていた子どもがコップの牛乳を一気に飲み干し、職員にお代わりを要求していました。

＜砂遊び＞

園庭で遊んでいた子どもが、お片づけ間際になって砂場に駆け込んできました。「お砂遊び」がしたかったようで、みんなが砂場からからいなくなるのじっと待っていたのでした。職員の声が聞こえます。「お部屋に入ろう!」「紙芝居してくれって!」「〇〇ちゃんも入って!」「ないないしてきて!」職員の呼びかけにも反応なしです。子どもたちは夢中になってお団子を作っています。状況を見た職員は子どもたちのなかに入って一緒にお団子を作りながら、「このお団子、砂場に戻そうよ!」といって、お団子を砂場に向かって投げ始めました。すると子どもたちも真似をして次々、投げはじめ、お団子がすっかり、無くなりました。そのタイミングで、「さあー、紙芝居が待ってるよ!」職員の声かけに、砂遊びの未練が払拭できたようで、子どもたちはもう次のプログラムに進行です。職員の見事な払拭作戦でした。

＜排泄＞

午睡後、オムツ替えをするため、職員が子どもたちに声かけしています。「ここにゴロンして!」マットを指さし、こどもを誘導しています。「おズボン脱ぎ脱ぎできる?」月齢の高い子どもに話かけています。自分で脱ごうと頑張っている子、紙おむつの場所に取りに行く子、柄で分かるらしく、さっさと取りに行き職員に渡しています。オムツを取り替えてもらった子どもは、絵本の読み聞かせをしている職員のところ行って、楽しそうに絵本に耳を傾けていました。

【2歳児】

＜食事風景＞

食事の前に絵本の読み聞かせをして、気持ちを落ち着かせます。職員が手指の消毒にスプレー液を持ちながら子どもたちの間を回っています。本日のメニュー、ごはん、みそ汁、(具たくさん)握り上げ、ワカメの酢の物、カボチャ煮、食事の時に必ず職員が一人ついて一緒に食べます。子どもの食事の様子を見ながら正しい食事のマナーを教えています。ごはんは普通盛りと小盛を用意して子どもが自分で選ぶようになっています。テーブルにスプーン、フォークがあり、自分で食べやすい方を選ぶようになっています。お箸は手首の形成がしっかりしてから、という「やなぎさわ方式」を取り入れ、4歳からスタートし、はじめは遊びの中で少しずつ練習を始めます。「食事は楽しく食べる」を基本としており、食事中も楽しそうなおしゃべりが飛び交っていました。野菜の苦手な子どもが一口食べました。「野菜たべられたよ!」大きな声で得意気に話すと職員が「よかったね」、手を叩いて褒めていました。

<午睡前の遊び>

食事のあと、少し遊びの時間があります。好きな絵本を見たり、絵を描いたり、ウルトラマンのポーズをバッチリ決め、得意気な子、どの子どももゆったりとリラックスしています。

壁に動物の絵が人数分貼ってあり、そこには子どものお誕生日が書かれています。子どもたちが自分の誕生日を教えてくれました。高くて手が届かない子どもが抱っこを要求してきたので、抱っこをすると指をさして教えてくれました。すると他の子どもからも要求され、抱っこすることになり、子どもたちが早い順に並び、全員が調査員に教えてくれました。自分の誕生日を知ってもらったという満足感が笑顔から感じられました。みんな字が読めるのかと、驚いていると職員が、誕生日を書き込んでいる動物の絵で分かる、ということでした。

<午睡>

みんな、目がぱっちりです。布団の上に座って周りをキョロキョロ、話し声も聞こえてきます。カーテンを引き、照明も落とし、寝る体制になっていますが寝ている子は僅かです。職員は特に眠りを強制せず、子どもの側にいき、背中をトントンしながら見守り、子どもは職員にくっついていきます。10分、20分、時間が経過したころには大半の子どもが眠りにつき、最終的には全員が眠りにつきました。職員は根気よく、気長に子どもに寄り添い、見守っていました。

【3、4、5 歳児】おひさま合同保育

9時半から異年齢児保育はスタートです。1階の広い部屋をぶち抜いた3、4、5才の保育室です。

「おはようの唄」からです。男性保育士のピアノ伴奏で元気に大きな声で「みなさんおはようございます」と朝の挨拶をします。子どもたちの姿勢は直立し、手をうしろに組むという歌うときの基本姿勢をとっています。なかには椅子に腰かけた子もいますが、どんどん進んでゆくと、その子はいつのまにか直立した姿勢になっています。朝から大きな声をだすと気分がいいのか、子どもたちはにぎやかで 本気に楽しそうです。

それがおわると全員座って 先生の「今日の献立」の説明です。そして今日1日何をするか説明があります。まず絵本の読み「魔法のでんしれんじ」、男性保育士のおはなしです。 全員が聞き入っています。巧みな話術でこどもを引き込みます。

それから、3歳の子ども8名を加えて、合計35名が「おひさま保育」にはいります。

4 コーナー「制作」「お絵かき」「ままごと」「園庭遊び」に分かれます。好きなチームに子どもは入っていきます。自主性を尊重し、好きなことをやらせる、という考えからです。

○「園庭」コーナーは130坪、小春日和の天気です。風は冷たく体の芯から冷えますが、子どもたちは元気よく園庭に飛び出します。庭は広く、築山が2つあり、それを平均台でつなぎ その上を子どもは渡ります。どろんこの砂のコーナーや枯葉が落ちた土の上を子どもたちは走り回ります。“今日は砂場遊びが盛り上がった!!、すももさん(3歳クラス)から大きいまつぼっくり(5歳クラス)まで みんなで大きな山やトンネルを作りました。大きいぼっくりはトンネルを上手に作りました”と当日の様子を保護者に担当職員は園だよりに書いています。

○「お絵かき」のチームは6人でクレヨンを使いながら 長い画用紙を本のようにとじて絵を描いています。絵の形から電車の絵を描くが子が多いのですが、まっすぐ描けません。先生は教えませんが、子どもには容易にはできないのですそれでも電車の形はできています。

○「制作」コーナーは折り紙で星の形を作っています。職員がつきっきりでやりかたを教えてゆきます。星の形がすんなりと、あざやかにできる子、ステッキがカラフルにたくさんできる子、自分で選んだ工作ですから、得意げです。「パパ、ママにも作ってかえろう」とはりきっている子どもたちです。

○「おままごと」コーナーは本当のままごとです。実物モデルのキッチンを使い、レンジで温める姿、フライパンを振る子、子どもを見ていると家でママの姿をよく見ているなーと感じるほどです。ままごとで遊んでいる子どもの口調や後姿からママさんになり切っていて、こっそり聞いているなあとうかがえるシーンです。

【3 歳児】

<活動や遊び>

<排泄>

<食事>

訪問 2 日目のメニューは 7 分つきのご飯、白身魚のフライ、キャベツの梅和え、かぼちゃ煮です。3 歳児ですからお箸は使いません。スプーンのみです。ご飯もスプーンですくって食べますがご飯が落ちそうになると片手を添えて落ちないようにして食べています。

切れ目のあるフライもスプーンで簡単に切れますがテーブルについている職員が見かねて切る手伝いします。キャベツもすくって食べます。ご飯は楽しく食べる、ということですから、話に夢中です。にぎやかで、笑い声が絶えなくて屈託が全くありません。食べていない子はいません。食べ残す子もいません。完食です。

【4、5 歳児】

<散歩>

本園から並木街路を歩いて 3 分のところに広大な太尾南公園、実体は港北区水再生センターという浄水場の上を活用した鉄筋コンクリート作りの空中 10mにある市民公園です。屋上にグラウンドがあり、芝生が植えられ、常緑樹あり、落葉樹あり、小さな滝も作り、流れ落ちる水はせせらぎとなって 30mほどながれ、その中にはザリガニやカエルが生息する自然生態系（ビオトープ）が生まれています。このなかで子どもたちは午前中、週 2 回は遊びます。

12 月の小春日和のなか 4、5 歳児 24 人は 4 人の職員とともに交差点もない並木道を歩き、屋上公園ですからスロープを上って別名エレベーター公園へつきます。青いおそろいのリュックを 1 か所に降ろし、足慣らしに 50mほど 3 回走ります。そこで持参の水筒で水分を補給します。あそび場は大きく分けて大小のグラウンドが 2 つ、鉄棒、ブランコ、滑り台がある所、芝生の上を寝ころびができるエリア、樹木があるエリア、水が流れるエリアと子どもにとってはいろんな遊びが体験できる公園です。

4 人の職員はドッジボールをする組、芝生を走り回る組、砂場で遊ぶ組、直径 1mはある土管の中で隠れたり、丸い土管の上によじ登り遊ぶ組などに分かれ、子どもは飽きると別の好きなあそび場に移動しながら動いてゆきます。自由に遊びを選択させています。職員は分担しながらそれらを見守り、時には一緒になって遊びます。

つつじや常緑植物が生えているエリアに子どもが入り込み、ブルーベリーを探す子、緑の葉をつけている植物に興味をもち、「どうして秋なのに青いの」などつつぶやく子もいますし、一人で動こうともしない子もいます。職員が傍に行っている話しかけます。かまってもらいたいようです。

市民公園ですから犬の散歩するひと、ベンチで日向ぼっこする人、他の園の子たちも来ます。広いのでぶつかることもなければ、あそび場を取りっこする子もいません。他の園児との区別は帽子の色でできます。遠くへ走って行っても見守りができます。危険なものがないのです。

水のせせらぎが子どもは好きのようで、流れの傍にゆき、ザリガニを見つけおおはしゃぎ、まだ居ないかと水底を木の枝でさらう子もいて、泥水となって流れるさまを見て、水が濁ることを体験しています。水深は10cmほどですから全く危険はないのです。

犬の散歩組が4人いましたが、一人の子どものところへ寄ってきます。家で犬を飼っている子どもはある匂いを持っていて不思議と犬が近くに来るとその子のそばに寄ってくる習性があります。その子は犬とご婦人となかよしになったようです。

最後に広いグラウンドで2組に分かれリレー競争です。50mほどの輪を職員がつくり、それを子らが次々とリングバトンをつないでゆきます。遊び疲れて元気がないのではないかと危惧しましたが皆元気で全力疾走します。つまずいて倒れる子が3人いましたが職員や仲間の「がんばれ、がんばれ」の声援で一人で立ち上がり、みな、最後まで走り切ります。1時間半びっしり遊んで、走り回り、その後のリレーです。子どもたちの体力はすごいものがあります。忍耐と自立心が芽生えているのでしょう。

<食事>

4歳と5歳児はテーブルは別ですが、隣合わせになって合同です。保育士たちが帽子をかぶり、専用エプロンをつけ、にわか給食員になります。7分つきごはんを中盛りと小盛りにして、子どもの選択に任せます。

当番のこどもが挨拶、そしてご飯を取りに順番にいきます。子どもですから秩序だって、並ぶことはありませんが、25名のこどもはあつという間にとってきます。次は副食の3種盛ったお皿(プレート)を取り、最後に「味噌汁」を自分でテーブルに運んできて、それがそろったところで当番の子ども2人が「いただきます」のあいさつをします。その間10分間です。

メニューは七分つきご飯と副菜がにぎり揚げ、わかめの酢の物、かぼちゃ煮、そして味噌汁です。全部園内で手作りの調理ですから、未だ温かい食事です。

食べ始めると、にぎやかになります。食べる順番はお構いなしです。テーブルにはお箸とスプーンの2つがおいてあり、子どもはどちらを使ってもいいようです。年間食育計画によると「1歳児でスプーンを持たせる」「2歳児でスプーンの持ち方」「4才でスプーンと箸を併用する」とあります。お箸は4歳になってから初めて使い方を教えるようです。それはお箸を使うときの手の骨の発育が十分でないときに使わせると、無理な力が入り、正しい持ち方ができにくくなるということからそうしているようです。

味噌汁をスプーンですくって食べる子、お椀を両手でもち、すする子、様々です。

4才では食べ方のマナーを身に着け、5歳で確認する、となっています。

子どもたちはまだ食べることに夢中で、お話を夢中です。「おじさん、何歳」「何しにきたの」「うちのパパより年上だ」と矢次早やの質問がきます。

アレルギー食の子が一人います。「赤いプレート」がのっており、その赤色がアレルギー対応食がある場合の目印です。対応食がない場合は「青プレート」がのっております。文字ではなく視覚で判別するという工夫がなされています。職員がひとり最後まで付き添います。

お代わりは食べ始めてから20分ぐらいで「時計のハリが6を指したらおかわりできます」と5分前に職員が皆さんへ伝えます。その時間になってもお代わりをする子は少ないのです。それはご飯を「中盛り」「小盛り」の2種類を最初から子どもに選択させているからです。職員も一緒に食事しますので、お代わり時の混雑さを少なくしている工夫の一つです。

栄養士が常勤で2人おり、園の方針である新鮮な食材を「手作り」で提供することで、園の理念、人生に必要なこと、その一つである「食べること」にこだわりをみせています。

くつくおさんぽ保育園ふとお

■保育園の基本理念や基本方針についておたずねします。

問1 あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか(○は1つだけ)

1よく知っている 7名 13 %	3どちらともいえない 9名 17 %	4あまり知らない 5名 9%	無回答 (%)
2まあ知っている 31名 58 %	5全く知らない 1名 2%		
合計			53

付問1 【「1 よく知っている」または「2 まあ知っている」とお答えの方へ】

あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。(○は1つだけ)

1賛同できる 24 名 45 %	3どちらともいえない 4名 7%	4あまり賛同できない 0名 0%	無回答 13 (24%)
2まあ賛同できる 12 名 23 %	5賛同できない 0名 0%		

■ここからは保育園のサービス内容について、満足度をおたずねします。

問2 お子さんが入園する時の状況についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。(○はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。)

(上段の単位は人)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	24 45%	15 28%	3 6%	0 0%	11 21%	0 0%
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	12 23%	29 55%	5 9%	3 6%	3 6%	1 2%
園の目標や方針についての説明には	20 38%	27 51%	3 6%	2 4%	1 2%	0 0%
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	18 34%	25 47%	6 11%	2 4%	2 4%	0 0%
保育園での1日の過ごし方についての説明には	15 28%	26 49%	11 21%	1 2%	0 0%	0 0%
費用やきまりに関する説明については (入園後に食い違いがなかったかを含めて)	17 32%	22 42%	9 17%	4 8%	1 2%	0 0%

問3 保育や行事の年間計画についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。(○はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	16 30%	21 40%	14 26%	2 4%	0 0%	0 0%
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	8 15%	20 38%	10 19%	6 11%	9 17%	0 0%

問4 日常の保育内容についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。(○はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	24 45%	24 45%	4 8%	0 0%	1 2%	0 0%
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	28 53%	19 36%	5 9%	0 0%	1 2%	0 0%
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	19 36%	25 47%	2 4%	2 4%	5 9%	0 0%
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	20 38%	22 42%	5 9%	4 8%	2 4%	0 0%
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	25 47%	22 42%	2 4%	0 0%	4 8%	0 0%
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	22 42%	25 47%	4 8%	1 2%	2 4%	0 0%

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	42	11	0	0	0	0
	79%	21%	0%	0%	0%	0%
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	37	18	2	0	1	0
	70%	34%	4%	0%	2%	0%
基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	25	22	2	1	3	0
	47%	42%	4%	2%	6%	0%
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	24	19	6	1	3	0
	45%	36%	11%	2%	6%	0%
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	13	23	5	1	10	0
	25%	43%	9%	2%	19%	0%
お子さんの体調への気配りについては	22	27	4	0	0	0
	42%	51%	8%	0%	0%	0%
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	30	17	4	1	1	0
	57%	32%	8%	2%	2%	0%

問5 保育園の快適さや安全対策などについてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。（〇はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。）

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	15	28	8	1	1	0
	28%	53%	15%	2%	2%	0%
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	24	22	6	0	0	0
	45%	42%	11%	0%	0%	0%
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	10	27	8	4	4	0
	19%	51%	15%	8%	8%	0%
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	20	25	5	3	0	0
	38%	47%	9%	6%	0%	0%

問6 園と保護者との連携・交流についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。（〇はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。）

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	24	20	7	2	0	0
	45%	38%	13%	4%	0%	0%
園日よりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	21	26	4	2	0	0
	40%	49%	8%	4%	0%	0%
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	17	25	8	3	0	0
	32%	47%	15%	6%	0%	0%
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	12	27	9	5	0	0
	23%	51%	17%	9%	0%	0%
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	17	28	6	1	1	0
	32%	53%	11%	2%	2%	0%
保護者からの相談事への対応には	18	26	7	2	0	0
	34%	49%	13%	4%	0%	0%
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	21	20	5	0	7	0
	40%	38%	9%	0%	13%	0%

問7 職員の対応についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。（〇はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。）

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	28	23	2	0	0	0
	53%	43%	4%	0%	0%	0%
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	33	19	1	0	0	0
	62%	36%	2%	0%	0%	0%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	22	15	2	0	10	0
	42%	28%	4%	0%	19%	0%
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	28	21	3	0	1	0
	53%	40%	6%	0%	2%	0%
意見や要望への対応については	19	22	4	6	1	0
	36%	42%	8%	11%	2%	0%

問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足していますか。

総合満足度は	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
	25	23	4	1	0	0
	47%	43%	8%	2%	0%	0%